

中曽根元首相 死去

101歳、戦後政治の総決算

安倍、佐藤、吉田、小泉各内閣に次ぐ戦後第5位の長期政権を担い「戦後政治の総決算」を掲げて国鉄(現JR各社)の分割・民営化を実現した元首相の中曽根康弘(なかそね・やすひろ)氏が死去したことが29日、分かった。101歳。群馬県出身。自宅は東京都豊島区高田2の18の6の301。関係者によると、29日午前7時すぎ、東京都内の病院で亡くなった。

東京帝国大(現東大)法学部卒。内3区で初当選し、当選20回。科学技術庁長官、通産相、自民党幹事長などを務め、1947年に衆院旧群馬歴任して82年11月、鈴木善幸首相の退任後、2003年の議員引退後も憲法改正を主張した。

首相在任中は国鉄のほか、日本電信電話公社(現NTT各社)、日本専売公社(現日本たばこ産業JT)の民営化など行財政改革を進めた。戦後首相初の靖国神社公式参拝や、防衛費の国民総生産(GNP)比1%枠撤廃など国政上のタブーに挑んだ。

対米関係ではレーガン大統領(当時)と「ロン・ヤス」関係を築いた。

86年の衆参同日選で自民党を衆院300議席の圧勝に導き、党総裁任期を1年延長し続投。売上税導入を目指したが、公約違反との批判を浴び断念した。

97年に大勲位菊花大綬章を受章。ロッキード事件、リクルート事件を巡り国会で証人喚問を受けるなど疑惑も指摘された。



1986年7月、衆参同日選挙で自民党が圧勝し笑顔の中曽根康弘首相
＝東京・永田町の党本部